はしがき

本年の所報は、2001 年 9 月 20－21 日に、日本統計研究所主催で行われた日中経済統計学国際会議の報告を特集することにした。

今日、中国は、世界そしてアジアの経済・政治においてますます大きな位置を占め、日本との経済的ならびに人的つながりも深いものになっている。日本と中国における相手国の研究において統計は不可欠であり、これに関連して両国の統計制度や統計生産の実情の研究もますます重要になってきている。これら統計を用いた相手国および日中関係の実証研究も一段と盛んになってきている。この動きを着実に強化していくことは、両国の統計界の重要な課題である。

そして、両国の統計研究者の学術交流を強め、研究者が直接的に論議を交わすことは、両国の実情の把握や両国の統計と統計学についての理解を深める上で、最も有力な手段のひとつである。さらに、両国間の統計研究者の交流は、統計学あるいは学術研究から離れて、海を挟む隣国同士の相互理解や平和的な関係の発展にとっても重要なことである。

国際交流を早くから重視し,多様に推進している法政大学は、100 周年記念館国際会議場をメイン会場としたこの日中統計学会議開催に際して、会議のための日本統計研究所からの予算要求に応じてくれ、さらに会議準備と開催のために事務部門からの支援を提供してくれた。

日中間の統計界の交流としては、政府レベルでの日本から技術指導他多くの交流がある。学会レベルでは、経済統計学を中心として,1980 年代後半からの個人およびグループ間の交流の後に,1995 年にはじまり 2 年間隔で開催されている日中経済統計学国際会議と、数理統計学をふくむ広い分野のテーマをとりあげて 3 年毎に開催されている日中統計シンポジュームがある。前者の日中経済統計学会議は、日本側は経済統計学会が中心になり、中国側は、中国全国工業統計学教学研究会を中心に中国統計学会および国家統計局が関わる形で、95 年に北京市、97 年に関西大学、99 年に嘉興市で開かれてきた。今回の法政大学での会議は、この第 4 回会議にあたる。主催は日本統計研究所であるが、経済統計学会の日中統計学担当者グループの協力を得た。この日中経済統計学会議と、もう 1 つの日中統計学シンポジュームの開催年次がともに 2003 年であり、開催地が中国なので、両会議の合同開催となることが予定されている。

2 日間にわたる今回の会議には,中国から 9 名の研究者が参加し、これに日本

在住の中国の統計研究者が多数参加し、参加者は合計で 60 名に及んだ。報告数は 22 で、一部に並行セッションが設定された。会議での報告と討論を通じて、そして昼食時やコヒーブレークの際に、両国の研究者の間で、またそれぞれの国の研究者の間で、多くの有益な懇談や情報交換があった。特に,第一日夜の懇親会では、参加者相互で話がはずんだ。全体として,会議は盛会であった。

本所報には、報告者が会議の後修正・補強した論文,会議の際に配布した論文,そして一部には会議報告要旨集からの転載した要旨、を収録した。また会議の様子を伝えるために,写真と会議プログラムも掲載した。この所報の編集にあたり，統計研究所の渡辺和子さんには，中国と日本国内の執筆者との連絡，中国語のスキャナー経由の変換，文字化け、執筆者からの再三の直しなど予想を遙かに上回るやっかいな作業を３カ月間にわたって遂行していただいた。また戴艶娟さんには中国語文の校閲をしていただいた。そのご苦労もここに記しておきたい。

日本統計研究所は、中国から会議に参加された方々、日本の全国各地から参加された方々、通訳を担当された方々、そして会議の準備・進行のためにご協力いただいた多方面の方々に対して、この場をかりて深く感謝したい。

この所報が、今後の日中間の統計研究や統計研究者の交流に、そして、これらの問題に関心を持つ多方面の方々に、いくらかでも貢献できるなら幸いである。

2002 年 2 月　　法政大学日本統計研究所